

苫小牧市総合戦略推進会議

令和6年度第1回会議資料

令和6年9月20日（金）13時から
【苫小牧市役所5階 第2応接室】

本日の会議内容

1. 第2期人口ビジョン及び総合戦略の検証について
2. アンケート集計結果について
3. 第3期人口ビジョン及び総合戦略骨子(案)について
4. 今後のスケジュールについて

01 | 第2期人口ビジョン及び総合戦略の検証について

1. 検証① 人口の推移について

- ・令和5年に公表された推計（赤線）は、第2期人口ビジョンで掲げた将来展望（青線）及び平成30年の推計値（緑線）よりも人口が減少しており、人口減少が加速している状況。（図1）
- ・一方、道内の人口規模上位5市のうち、札幌市を除く4市で比較すると本市の人口減少幅は少ない状況。（図2）

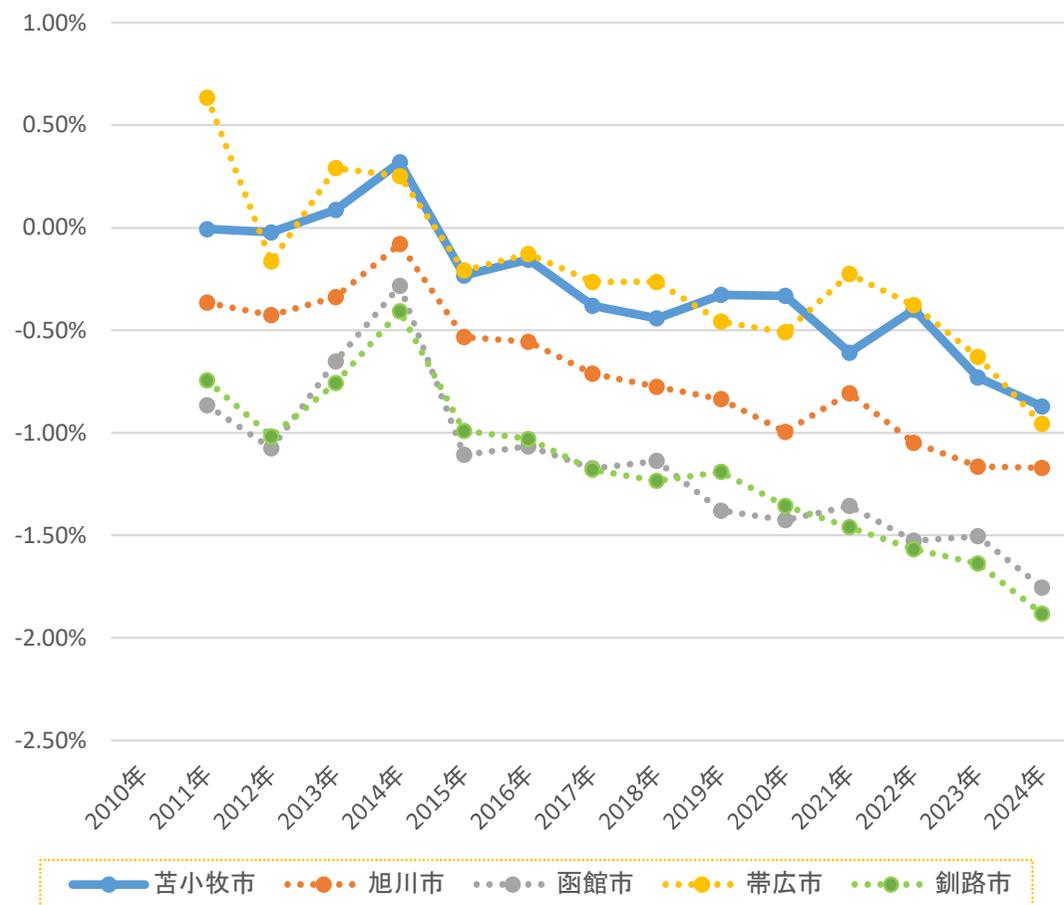
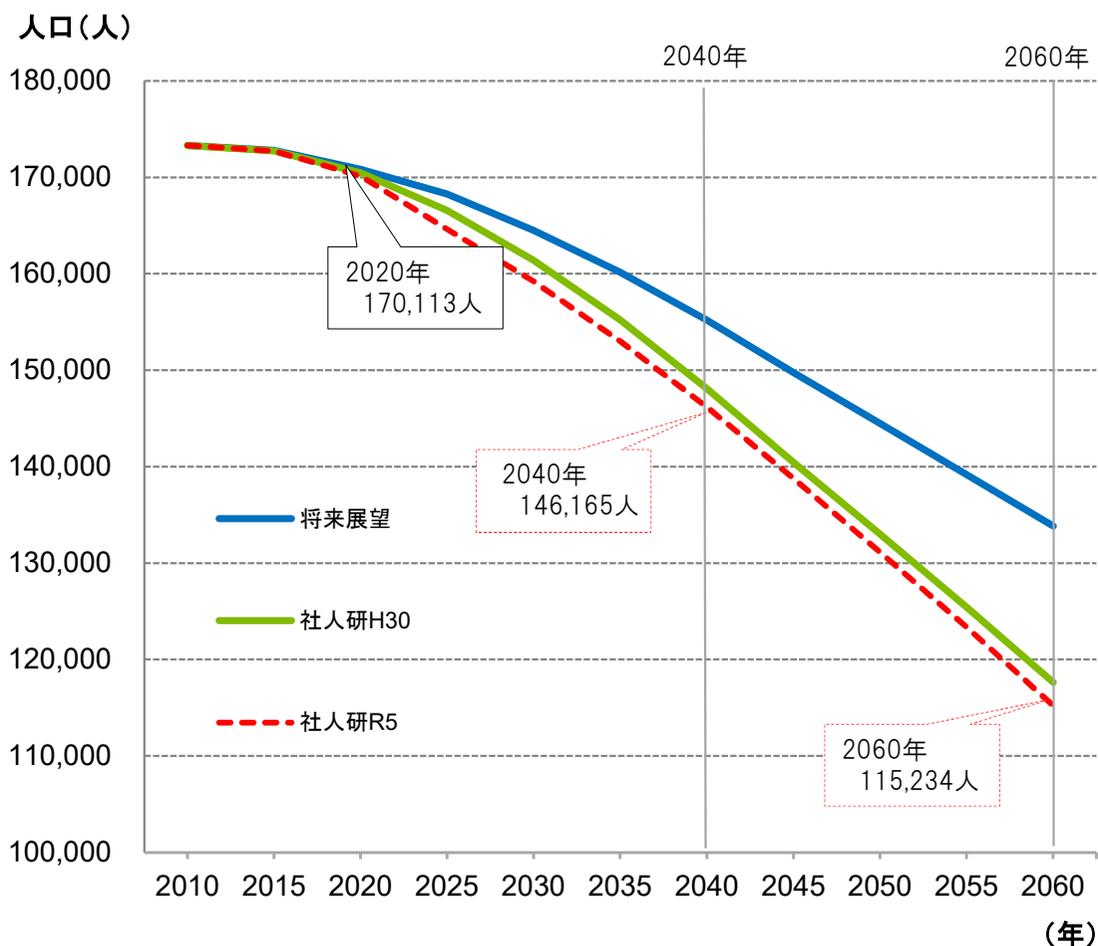
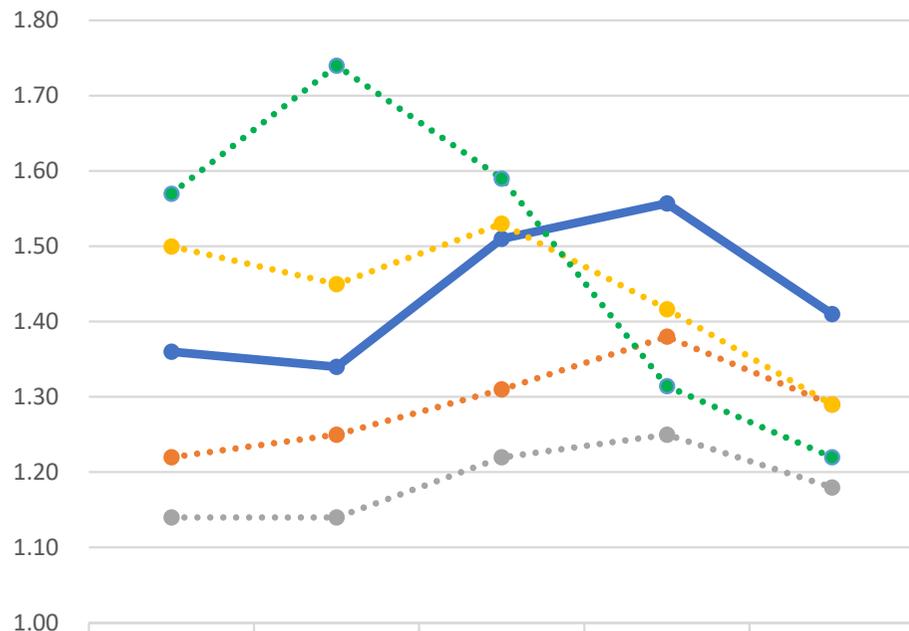


図1 国立社会保障・人口問題研究所（厚生労働省）の直近の推計（苫小牧市）

図2 人口増加率の推移（道内5市）

1. 検証② 合計特殊出生率・人口動態について

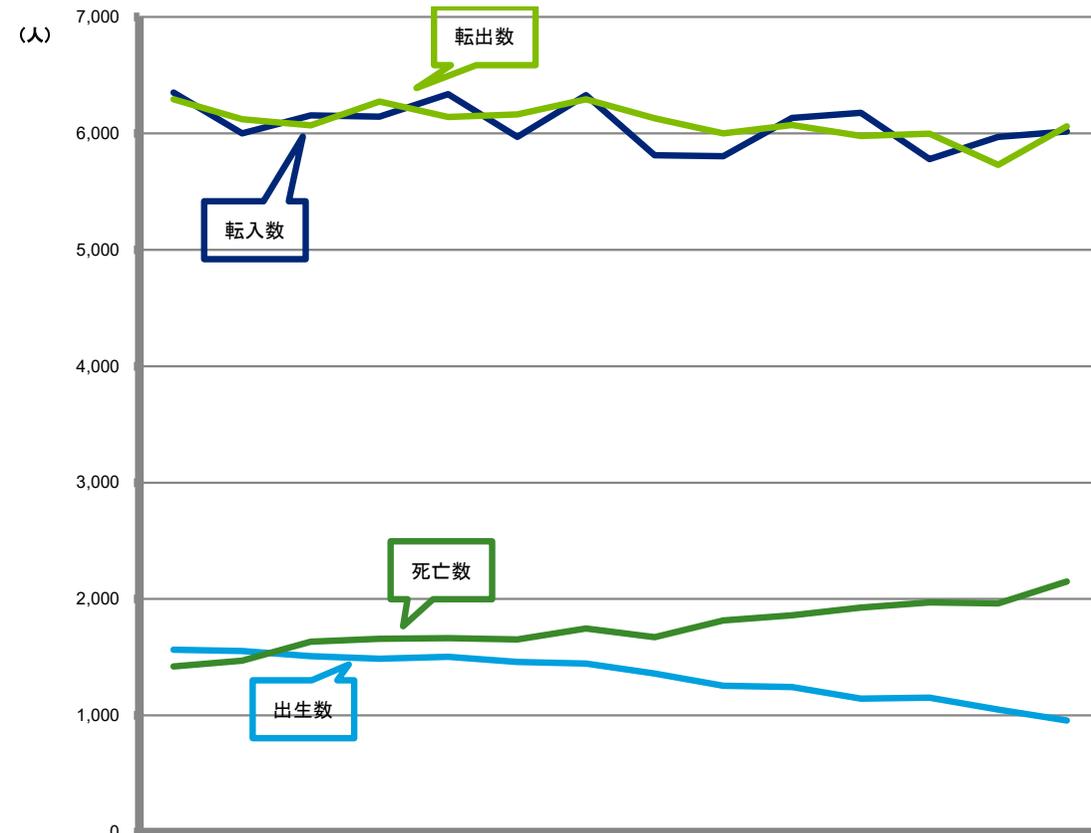
- 本市の合計特殊出生率は、平成25年（2013年）～平成29（2017年）をピークに減少し、現在は1.41。（図3）
- 道内の市町村と比較すると高い結果となっているが、第2期人口ビジョンの将来展望に掲げる目標値【合計特殊出生率1.80】を下回っている状況。
- また、社会動態は同水準で推移しているが、自然動態については平成24年（2012年）以降死亡数が増加し、出生数が減少を続けていることから、引き続きの対策が急務。（図4）



	1998-2002年	2003-2007年	2008-2012年	2013-2017年	2018-2023年
●— 苫小牧市	1.36	1.34	1.51	1.56	1.41
●... 旭川市	1.22	1.25	1.31	1.38	1.29
●... 函館市	1.14	1.14	1.22	1.25	1.18
●... 帯広市	1.50	1.45	1.53	1.42	1.29
●... 釧路市	1.57	1.74	1.59	1.31	1.22

●— 苫小牧市 ●... 旭川市 ●... 函館市 ●... 帯広市 ●... 釧路市

図3 市区町村別の合計特殊出生率 厚生労働省令和6年4月公表



	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年
— 転入数(人)	6,352	5,999	6,153	6,142	6,337	5,970	6,327	5,811	5,802	6,131	6,176	5,779	5,970	6,015
— 転出数(人)	6,293	6,121	6,069	6,272	6,141	6,163	6,292	6,128	6,000	6,070	5,978	5,997	5,731	6,060
— 出生数(人)	1,565	1,555	1,509	1,486	1,504	1,460	1,447	1,359	1,255	1,243	1,146	1,152	1,051	959
— 死亡数(人)	1,422	1,471	1,635	1,659	1,663	1,652	1,746	1,672	1,816	1,859	1,927	1,970	1,962	2,151

図4 社会動態・自然動態の推移

1. 検証③ 総合戦略の取組状況について

- ・総合戦略の策定にあたり、本市における課題認識や優先順位を考慮しながら、4つの基本目標と数値目標（以下）を設定し、目標の実現に向けて取組を進めてきた。
- ・（令和6年度が第2期総合戦略の最終年のため、）4年間の実績では、4つの基本目標や各施策の達成状況は、概ね順調に推移している状況。（詳細はP7～22）
- ・また、人口の推移（検証①）や、合計特殊出生率・人口動態（検証②）の状況から、総合戦略の取組が人口減少抑制に一定程度、寄与しているものと考えられるが、引き続き人口減少が進む傾向であることから、これまでの取組も含め、新たな視点を加えた切れ目のない取組が必要。

4つの基本目標における数値目標

1.地元企業と学生との“つながり”を強化し、地元雇用の確保・拡大を実現	H30基準 (2018)	R3実績 (2021)	R4実績 (2022)	R5実績 (2023)	R6目標 (2024)	達成状況
新規雇用創出数（人）	46	累計79	累計148	累計212	累計230	92.2%
管内学生の管内事業所就職割合（%）	45.5	45.9	45.5	44.7	50	89.4%
新規創業件数（件）	12	累計43	累計77	累計100	累計125	80.0%
2.子育てしながら仕事を続けられる社会環境の整備	H30基準 (2018)	R3実績 (2021)	R4実績 (2022)	R5実績 (2023)	R6目標 (2024)	達成状況
合計特殊出生率（-）	—	⇒	⇒	1.41	1.8	78.3%
子育て環境や支援の満足度（5段階評価）	2.9	⇒	⇒	2.83	3.3	85.8%
3.地元の魅力を強化、暮らしやすさ発信で移住を促進	H30基準 (2018)	R3実績 (2021)	R4実績 (2022)	R5実績 (2023)	R6目標 (2024)	達成状況
転入者数（定住人口数）（人）	6,122	5,965	6,006	6,129	6,600	92.9%
観光入込客数（万人）	199.5	148	213.1	263.6	260	101.4%
「苫小牧市は住みやすい」と回答した人の割合（%）	33.1	—	—	31.3	40.0	78.3%
4.産業競争力を高め、地域ブランド力を向上	H30基準 (2018)	R3実績 (2021)	R4実績 (2022)	R5実績 (2023)	R6目標 (2024)	達成状況
新規企業進出件数（5年間累計）（件）	累計16	累計3	累計7	累計9	20	45.0%
「働く場」としての魅力度（%）	40.5	—	—	41.6	50.0	83.2%

基本目標 1 地元企業と学生との“つながり”を強化し、地元雇用の確保・拡大を実現

現状と課題

- ・ 市外の転出の統計データを年齢別にみると、大学進学や就職を機に多くの若者が市外（特に札幌市や首都圏）へ転出していることがわかる。
- ・ この状況から若年層（20歳代）の転出抑制及び転出者の再転入を促す雇用環境の充実が課題となっている。

基本目標と施策の基本的方向

- ・ 市内の高校・大学等に通う学生が地元企業を知り、興味を持つ機会を設け、企業の認知度を高める。
- ・ 若者をはじめ、働きたい人が働くことができ、地元企業の雇用を確保・拡大できるよう支援するとともに、市内創業者（起業家）の創出・育成を図る。
- ・ Society5.0の実現に向けた未来技術の活用を促進する。

基本目標における数値目標

項目	H30基準	R3実績	R4実績	R5実績	R6目標	達成状況
新規雇用創出数（人）	46人	累計79人	累計148人	累計212人	累計230人	92.2%
管内学生の管内事業所就職割合（%）	45.5%	45.9%	45.5%	44.7%	50%	89.4%
新規創業件数（件）	12件	累計43件	累計77件	累計100件	累計125件	80.0%

基本目標

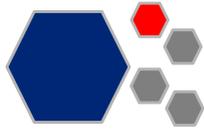
地元企業と学生との“つながり”を強化し、地元雇用の確保・拡大を実現

施策の基本的方向

- 1-1 若者の雇用機会の確保・拡大
- 1-2 学生と地元企業との“縁づくり”促進
- 1-3 創業支援
- 1-4 Society5.0実現の推進

施策1

若者の市内就職の促進



- UIJターン希望者等の市内就職に向け、都市部で合同就職説明会を開催し、市内企業の人材確保を支援するとともに、企業で行う職場体験や実務研修などの実施により、若者の市内就職を促進する。
- 地域の中小企業等の人材確保及び首都圏から本市へのUIJターンによる就業・起業の促進を図る。

各種事業の進捗状況

事業名・事業の内容	重要業績評価指標 (KPI)	H30基準	R3実績	R4実績	R5実績	R6目標	達成状況
合同就職説明会事業	内定者数(人)	9	累計7	累計19	累計27	累計40	67.5%
若者人材育成事業	就職者数(人)	6	累計16	累計23	累計32	累計30	106.7%
若者地元定着促進事業	登録者数(人)	—	累計28	累計53	累計59	累計50	118.0%
苫小牧UIJターン新規就業支援事業	北海道のマッチングサイト求人掲載数(件)	—	14	24	25	100	25.0%
介護人材確保支援事業	就職者数(人)	12	累計30	累計51	累計64	累計75	85.3%
介護職員育成支援事業	介護職員育成支援人数(人)	29	累計98	累計139	累計176	累計200	88.0%

施策2

学生と地元企業との交流・連携機会の創出



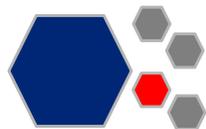
- 無料就職マッチングサイトにより、市内外の学生をはじめ、求職者に市内企業の魅力や求人情報を広く周知する。
- 高校生等を対象とした職場見学とバスツアーを開催するなど、学生と地元企業が出会う機会を設ける。
- 地元企業と連携し、小学生を対象とした疑似的な就労体験イベントを実施する。

各種事業の進捗状況

事業名・事業の内容	重要業績評価指標 (KPI)	H30基準	R3実績	R4実績	R5実績	R6目標	達成状況
就職マッチング支援事業	掲載企業数(人)	63	427	517	596	450	132.4%
就業チャレンジ支援事業	参加者数(人)	289	累計133	累計272	累計388	累計890	43.6%
キッズタウン開催事業	参加企業・団体数(社)	24	—	—	24	27	88.9%
関係機関と連携した各種取組の展開	参加者数(人)	355	累計111	累計506	累計779	累計1,200	64.9%
市内大学インターンシップ支援事業	長期・有償のインターンシップ参加学生数(人)	—	—	累計37	累計64	累計105	61.0%

施策3

苫小牧における創業支援



- ・ 苫小牧市内での創業希望者に対して、創業前後に必要な支援を実施する。
- ・ 関係する機関（商工会議所、金融機関等）と連携し、創業希望者に対して支援を行う。
- ・ 女性のエンパワーメントや潜在層の起業支援、起業後の交流の場を設けるなど、女性活躍に向けた取組を促進する。

各種事業の進捗状況

事業名・事業の内容	重要業績評価指標（KPI）	H30基準	R3実績	R4実績	R5実績	R6目標	達成状況
創業サポート事業	新規創業セミナー参加者数(人)	69	48	65	70	72	97.2%
創業等相談窓口の機能強化	相談件数(件)	825	累計1,627	累計2,894	累計3,300	累計4,500	73.3%
女性活躍促進事業	事業参加者数(人)	—	130	263	256	150	170.7%

施策4

Society5.0の実現に向けた技術活用の支援



- ・ 全国的に労働人口の減少が進む中で、市内企業が抱える課題・ニーズへの解決や新規事業を創出するため、先進的な技術やサービスを導入する企業を支援する。
- ・ 市の取組として、定型業務へのRPA導入、問い合わせ業務のAI化などにより業務効率化を図る。
- ・ 安全・安心なまちづくりのさらなる取組として、消防活動のICT化を検討する。

各種事業の進捗状況

事業名・事業の内容	重要業績評価指標（KPI）	H30基準	R3実績	R4実績	R5実績	R6目標	達成状況
苫小牧イノベーション活性化事業	補助件数(件)	—	13	16	21	30	70.0%
行政サービスのICT化	業務削減時間(年間)(時間)	—	1,500	2,670	2,071	1,700	121.8%
消防活動のICT化	飛行型偵察・監視ロボット、導水ロボット導入数	—	—	1式	1式	1式	100.0%

現状と課題

- 現在の合計特殊出生率を維持しても人口は減ることから、合計特殊出生率をさらに上げ、出生数を増加させなければ、人口減少の抑制は難しい。
- 出産や子育てしやすい環境を整備するとともに、子育ての経済的負担感の軽減が課題となっている。

基本目標と
施策の基本的方向

- 子育ての負担を軽くする社会の実現を目指し、世代や性別を超えた子育て支援を推進する。
- ワーク・ライフ・バランスの推進を図り、働きやすい環境を整備する。
- 社会の変化に対応する体験学習の機会、地域資源をいかした体験プログラムの充実により、子育てにとって良質な環境を提供する。

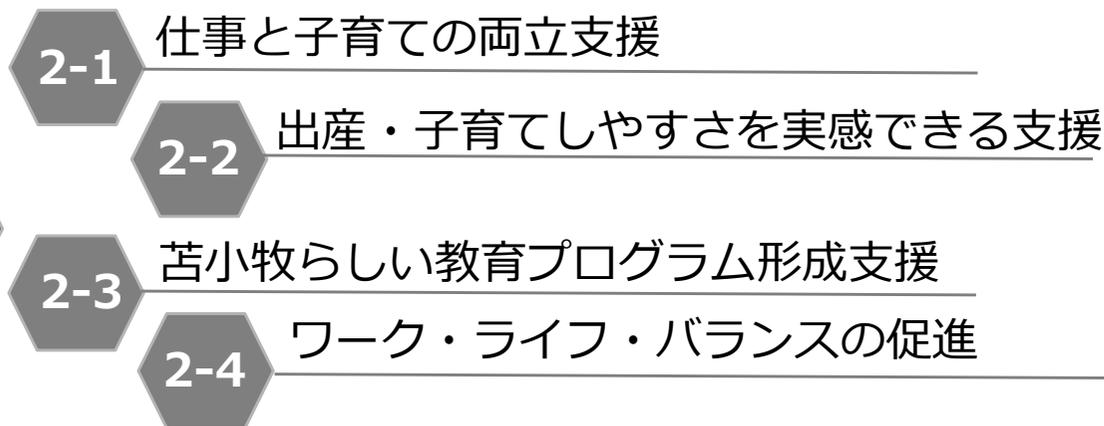
基本目標における数値目標

項目	H30基準	R3実績	R4実績	R5実績	R6目標	達成状況
合計特殊出生率（-）	—	⇒	⇒	1.41	1.8	78.3%
子育て環境や支援の満足度（5段階評価）	2.9	⇒	⇒	2.83	3.3	85.8%

基本目標

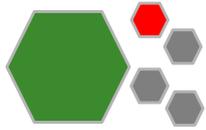


施策の基本的方向



施策5

ワーキングマザー&ファザーの子育て応援

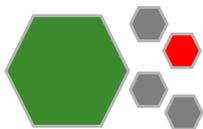


- 子育て中の母親・父親向けに講座の実施や出産・育児と両立に向けた支援することで、出産・子育てを理由とした離職を減らす。
- 子育ての物理的・経済的な負担を軽くすることで、「子どもが欲しい」「もう一人産みたい」の希望をかなえる。

各種事業の進捗状況

事業名・事業の内容	重要業績評価指標 (KPI)	H30基準	R3実績	R4実績	R5実績	R6目標	達成状況
父子健康手帳交付事業	父子健康手帳の交付率(%)	—	97.7	97.3	96.8	100	96.8%
	子育て応援教室の参加組数(組)	24	40	53	51	50	102.0%
小規模保育施設整備事業	小規模保育施設の設置数(施設)	6	11	12	13	15	86.7%
	小規模保育施設の入所児童数(人)	117	219	231	263	300	87.7%
なでしこ就業応援事業	就職者数(人)	19	累計26	累計55	累計89	累計85	104.7%
放課後児童クラブの充実	待機児童数(人)	3	0	0	0	0	100.0%
多子世帯給食費助成事業	支給者数(人)	—	426	416	439	430	102.1%

施策6 子育て支援・保育サービスの充実



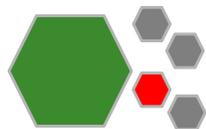
- 全ての子どもが心身ともに健やかに成長できる環境整備を図り、地域社会全体における子育て支援事業の充実を推進する。
- 多子世帯家族にとって負担の大きい、保育料の無償化（3人目）や不妊治療及び不育症に係る助成を行うなど、経済的な負担軽減を図る。

各種事業の進捗状況

事業名・事業の内容	重要業績評価指標 (KPI)	H30基準	R3実績	R4実績	R5実績	R6目標	達成状況
地域子育て支援事業	プレールーム利用数(人)	35,761	12,817	19,419	21,529	15,000	143.5%
	育児相談件数(件)	668	278	420	545	300	181.7%
	サークルルーム登録団体数(団体)	25	21	21	18	30	60.0%
一時預かり事業	保育所型の利用児童数(延べ人数) (人)	4,524	2,390	4,041	4,222	3,000	140.7%
	幼稚園型の利用児童数(延べ人数) (人)	4,272	3,745	2,844	5,837	4,055	143.9%
ファミリー・サポート・センター事業	登録会員数(件)	1,611	1,539	1,435	1,402	1,650	85.0%
	活動件数(件)	4,478	1,080	830	1,228	2,000	61.4%
子育て世代包括支援センター事業	相談件数(妊娠・出産・子育て) (件)	561	765	633	632	800	79.0%
	ケアプラン作成数(件)	344	416	425	449	452	99.3%
	産婦健康診査受診率(%)	—	94	96.7	92.8	100	92.8%
3人目の保育料等の無料化	市独自の無償化対象児童数(人)	275	252	228	203	270	75.2%
不妊検査・不育症治療助成事業	コウノトリ検査費助成件数(件)		116	102	84	130	64.6%

施策7

苦小牧の地域資源をいかした体験学習・地域づくりの推進



- ・豊かな感性と人間性を持つ子どもを育成するための体験学習の機会と環境の整備を図る。
- ・郷土とまこまいの魅力ある地域づくりを推進し、地元自慢・愛する心を育みます。

各種事業の進捗状況

事業名・事業の内容	重要業績評価指標 (KPI)	H30基準	R3実績	R4実績	R5実績	R6目標	達成状況
豊かな自然環境や文化をいかした体験プログラムの充実	体験プログラム参加人数(人)	10,179	5,705	7,047	7,832	9,500	82.4%
	体験プログラム実施回数(回)	228	133	160	170	200	85.0%
アウトリーチ推進事業	事業数(事業)	34	27	29	34	40	85.0%
苦小牧アートフェスティバル事業	ワークショップ参加者数(人)	571	—	616	1,070	1,000	107.0%
市民・団体研修派遣事業	研修派遣者数(人)	3	累計0	累計0	累計0	累計6	0.0%

施策8

「ワーク・ライフ・バランス」を重視した職場の整備



- ・ワーク・ライフ・バランスへの取組促進に向けた各種啓発を実施し、企業の従業員の意欲、能力、創造性を引き出して生産性の向上を図るとともに、優秀な人材の確保・定着への土壌をつくりだす。
- ・少子化の抑制、労働人口の確保など、社会全体の活性化を図る。
- ・北海道で初めて「イクボス宣言」をした本市の取組を民間企業へと水平展開するため、民間との合同により研修を実施する。

各種事業の進捗状況

※赤色枠は令和2年度をもって事業終了。

事業名・事業の内容	重要業績評価指標 (KPI)	H30基準	R3実績	R4実績	R5実績	R6目標	達成状況
ワーク・ライフ・バランス等推進事業	ワーク・ライフ・バランス等推進事業数(事業)	—	累計1	累計2	累計3	累計4	75.0%
官民合同研修事業	研修参加延人数(人)	—	—	—	20	100	20.0%

3 地元の魅力を強化、暮らしやすさ発信で移住を促進

現状と課題

- 今後の人口移動をめぐっては、全国的に人口が減少する中で、他都市（札幌や首都圏）との競合が一層激しくなる可能性がある。
- これまで以上に本市の魅力や暮らしやすさをアピールし、「苫小牧市に移り住みたい」というイメージを維持・拡大していく必要がある。また、実際に地域コミュニティの活性化や生活利便性の向上など、生活環境の改善も併せて進めていく必要がある。

基本目標と
施策の基本的方向

- 本市出身者を本市に戻ってくる可能性のある層（移住のターゲット）として捉え、将来的なUターンにつなげる。
- 定住人口と交流人口に加え、その中間に位置する関係人口を増やすとの観点から、スポーツの振興、合宿誘致などを通じて本市に興味を持ち、繰り返し足を運んでもらえる機会を設ける。
- 進学や就職期に本市を離れた方が「郷土とまこまい」に戻ってきたいと思わせる環境づくりを推進する。

基本目標における数値目標

項目	H30基準	R3実績	R4実績	R5実績	R6目標	達成状況
転入者数（定住人口数）（人）	6,122	5,965	6,006	6,129	6,600	92.9%
観光入込客数（万人）	199.5	148	213.1	263.6	260	101.4%
「苫小牧市は住みやすい」と回答した人の割合（%）	33.1	—	—	31.3	40.0	78.3%

基本目標

地元の魅力を
強化、暮らしやすさ
発信で移住を促進

施策の基本的方向

3-1

苫小牧出身者のネットワーク化支援

3-2

交流人口・定住人口の拡大支援

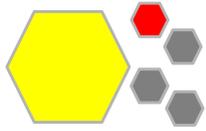
3-3

“とまごころ（地元自慢・愛する心）”の普及

3-4

関係人口の創出

施策9 苫小牧出身者への継続的な情報発信の拡充

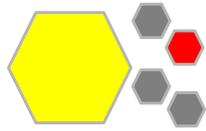


- 本市出身者は、将来的に結婚や子育てを機にUターンする可能性があることから、本市が持つ様々な魅力を配信する。
- 暮らしの情報や空き家情報、求人情報等をホームページやSNS（フェイスブック等）、本市出身者が集う場を活用して発信し、出身者が気軽に地元の情報に触れられる環境を整える。

各種事業の進捗状況

事業名・事業の内容	重要業績評価指標（KPI）	H30基準	R3実績	R4実績	R5実績	R6目標	達成状況
旬のとまこまい情報の発信事業	ホームページアクセス数及びFacebookリーチ数(件)	8,969,733	16,080,853	13,738,386	9,941,022	17,000,000	58.5%
同窓会組織への情報発信	情報発信回数(回)	—	累計5	累計11	累計16	累計15	106.7%

施策10 移住者の受入れ体制の充実



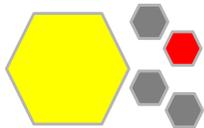
- 移住希望者に対して、本市の生活環境や子育て環境などの情報や相談窓口の一元化を行い、効果的な情報発信と相談支援を行う。
- 空き家の情報の整理・発信や空き家への入居支援を行う。
- 本市への移住後の生活がイメージできるよう、移住希望者の要望に応じたオーダーメイド型の移住相談（市内案内）を実施する。

各種事業の進捗状況

事業名・事業の内容	重要業績評価指標（KPI）	H30基準	R3実績	R4実績	R5実績	R6目標	達成状況
移住情報発信事業	イベント等での情報発信者数(人)	54	累計109	累計136	累計176	累計250	70.4%
移住体験プログラム ～苫小牧オーダーメイド移住ガイド～	移住ガイド参加者数(人)	2	累計13	累計29	累計44	累計45	97.8%
	移住支援金支援者数(人)	—	累計4	累計11	累計18	累計25	72.0%
氷都とまこまい体感プログラム	氷都とまこまい体感プログラム参加者数(人)	—	—	累計8	累計27	累計30	90.0%

施策11

ご当地イベントを活用した交流人口の創出



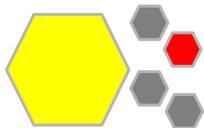
- 本市の貴重な自然や産業施設をいかしたイベントとして定着してきた「コスプレフェスタ」や、アニメ等のコンテンツを活用した新たな観光イメージをPRし、交流人口の更なる獲得につなげる。

各種事業の進捗状況

事業名・事業の内容	重要業績評価指標 (KPI)	H30基準	R3実績	R4実績	R5実績	R6目標	達成状況
とまこまいコスプレフェスタ	来場者数(人)	16,000	2,000	8,000	9,500	17,000	55.9%
とまこまいフィルムコミッション事業	ロケーション撮影数(件)	14	12	10	10	20	50.0%
アニメツーリズム推進事業	特設ホームページアクセス数(件)	—	12,099	20,890	3,080	18,000	17.1%
苫小牧都市再生コンテンツ創出事業	来場者数(人)	—	—	33,100	41,250	14,000	294.6%

施策12

縁結びコーディネート機能の充実



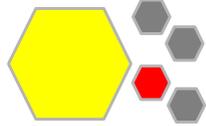
- 結婚を機とした移住者を増やすべく、苫小牧市内在住の男性又は女性と市外在住者（札幌市民など）とのマッチングを行う。
- （とましん結婚相談所と連携した）メンター機能を強化し、結婚希望者への支援を行う。

各種事業の進捗状況

事業名・事業の内容	重要業績評価指標 (KPI)	H30基準	R3実績	R4実績	R5実績	R6目標	達成状況
とまこまい縁結びサポート助成事業	婚姻率(%)	4.82	4.24	4.17	3.73	6	62.2%
	とましん結婚相談所登録者の結婚数(組)	6	累計3	累計9	累計10	累計30	33.3%
届け出挙式	挙式回数(件)	4	累計5	累計6	累計6	累計20	30.0%

施策13

郷土の魅力を伝える活動の推進



- 子どもから高齢者までの全ての市民が、本市の地域資源の魅力を知り、郷土とまごまいへの理解を深めるとともに、地元自慢・愛する心（とまごころ）の醸成につなげる。

各種事業の進捗状況

事業名・事業の内容	重要業績評価指標（KPI）	H30基準	R3実績	R4実績	R5実績	R6目標	達成状況
苫小牧版図柄入りナンバープレート	図柄入りナンバープレート交付数(件)	—	3,277	4,270	5,311	4,000	132.8%
とまチョップ水事業	とまチョップ水販売・配布本数(本)	92,000	61,104	74,178	99,148	75,000	132.2%
氷上スポーツ事業	スケートエンジョイスクール参加人数(人)	3,957	472	989	796	3,600	22.1%
	アイスホッケーコース参加人数(人)	594	158	773	764	600	127.3%
	スピードスケート体験教室参加人数(人)	276	205	236	130	250	52.0%
町内会スケートリンク経費助成事業	スケートリンク設置数(か所)	6	5	6	2	7	28.6%
国際アイスホッケー中学生交流事業	参加人数(人)	46	—	—	事業中止	50	—

施策14

苫小牧との継続的なつながりを持つきっかけづくりの推進



- スポーツ合宿等を通じて、本市の「ファン」を増やし、地域の課題解決にも関わってもらえる地域外の人々とのネットワークを拡げる取組を推進します。

各種事業の進捗状況

事業名・事業の内容	重要業績評価指標（KPI）	H30基準	R3実績	R4実績	R5実績	R6目標	達成状況
ふるさと納税事業	リピーター率(%)	18.8	27.3	30.7	31.5	30	105.0%
はちとまネットワーク推進事業	アイスホッケー事業参加人数(人)	40	—	累計51	累計92	累計80	115.0%
スポーツ合宿等補助事業	スポーツ合宿件数(件)	155	62	69	95	160	59.4%
	スポーツ合宿宿泊数(泊)	10,726	2,651	5,662	7,007	12,000	58.4%
全国高等学校選抜アイスホッケー大会	出場団体数(団体)	28	累計26	累計48	累計77	累計100	77.0%
ワーケーション拠点構築事業	ワーケーションホームページアクセス数(件)	—	—	23,118	26,893	20,000	134.5%

4 産業競争力を高め、地域ブランド力を向上

現状と課題

本市の人口推移は製造業をはじめとする企業進出の影響が大きく、人口減少局面に突入した時代においては、更なる競争力の向上が喫緊の課題。

産業集積地である本市は、世界的な景気の影響や社会環境の変化により、常に（国際的な）地域間の競争にさらされていると言える。

基本目標と
施策の基本的方向

- ・ 戦略的な企業誘致の推進及び進出企業に対するフォローアップを進める。
- ・ 多様な産業の集積を推進し、産業の高度化を目指すとともに、地域間連携による産業振興を進める。
- ・ 国際観光リゾートなどの新しい産業の誘致を図りつつ、豊かな自然環境との調和を図り、快適な都市環境を確保する。

基本目標における数値目標

項目	H30基準	R3実績	R4実績	R5実績	R6目標	達成状況
新規企業進出件数（5年間累計）（件）	累計16	累計3	累計7	累計9	20	45.0%
「働く場」としての魅力度（%）	40.5	—	—	41.6	50.0	83.2%

基本目標

産業競争力を高め、
地域ブランド力を向上

施策の基本的方向

4-1

進出・立地企業へのサポート機能の強化

4-2

多様な産業集積（高度化）の推進

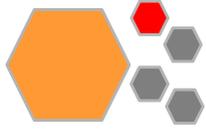
4-3

地域間連携の促進

4-4

充実した都市機能と豊かな自然の共生

施策15 進出・立地企業への支援強化



- ・ 立地企業が抱えている人手不足、人材確保等の課題やニーズに対して、継続的に意見交換・情報共有を図るとともに、課題解決に向けて連携・協力・支援を行う。
- ・ 外国人労働者をはじめ、外国籍市民の受入体制の充実、地域との共生を図るため、相談窓口を設置するほか、緊急通報時や救急活動時の多言語通話サービスを導入する。

各種事業の進捗状況

事業名・事業の内容	重要業績評価指標 (KPI)	H30基準	R3実績	R4実績	R5実績	R6目標	達成状況
事業拡大・販路拡大支援事業	展示会や商談会への出店経費の補助件数(件)	10	累計10	累計19	累計31	累計50	62.0%
人材確保支援事業	就職セミナーへの出店経費等の補助件数(件)	5	累計41	累計91	累計120	累計100	120.0%
職場環境改善事業	労働環境改善等のための経費補助件数(件)	19	累計31	累計70	累計86	累計100	86.0%
外国人相談窓口設置	サロン利用者数(人)	1,678	679	894	944	2,000	47.2%
離職防止等処遇改善事業	処遇改善企業数(件)	65	累計91	累計142	累計189	累計150	126.0%
緊急通報・救急活動時の多言語通話サービス導入	三者間同時外国語通訳及び多言語音声翻訳アプリ導入割合(%)	—	100	100	100	100	100.0%

施策16

地理的優位性をいかした企業誘致の促進



- 新規立地及び企業の設備投資を呼び込むために、必要なインフラ整備を行うとともに、企業のニーズに応じた助成金制度により企業活動を支援し、多様な産業分野における企業進出を促進する。

各種事業の進捗状況

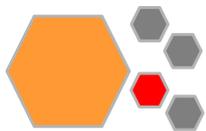
事業名・事業の内容	重要業績評価指標（KPI）	H30基準	R3実績	R4実績	R5実績	R6目標	達成状況
新千歳空港の機能充実と国内・国際空港 輸送ネットワークの拠点形成	国内路線(路線)	28	31	28	27	31	87.1%
	国外路線(路線)	19	—	24	7	34	20.6%
企業立地振興条例助成金	事業場設置助成金(千円)	252,943	168,159	233,412	308,710	304,494	101.4%
	雇用助成金(千円)	30,600	10,500	13,800	11,400	29,400	38.8%
	緑化助成金(千円)	—	0	0	2499	10,000	25.0%
苫小牧港管理組合負担金	貨物取扱量(外資)(千t)	17,550	16,034	15,791	16,322	22,144	73.7%
	貨物取扱量(内資)(千t)	89,895	88,743	92,263	84,958	89,606	94.8%

施策の基本的方向4-3

地域間連携の促進

施策17

広域連携事業の推進



- 東胆振定住自立圏における地域間の連携を促進し、本市が持つ都市機能と近隣自治体が持つ魅力や強み（豊かな自然・第一次産業等）を深掘りするとともに、その価値を内外に発信する。
- 近年、多発する広域災害への備えを広域圏で進めるとともに、災害発生後の復旧・復興はもとより、経済活動の停滞（風評被害など）を回避するための取組を連携して実施する。

各種事業の進捗状況

事業名・事業の内容	重要業績評価指標（KPI）	H30基準	R3実績	R4実績	R5実績	R6目標	達成状況
新千歳空港を核とした地域活性化の推進	新千歳空港旅客数(千人)	23,632	9,229	17,873	22,926	27,830	82.4%
広域連携による地域ブランド推進	地域ブランドの合同PR回数(回)	6	累計4	累計8	累計12	累計20	60.0%
防災体制の充実	備蓄品充足率(%)	79	94	95	98	100	98.0%

施策の基本的方向4-4

充実した都市機能と豊かな自然の共生

施策18

持続可能な都市機能及び自然と共生した国際観光リゾートの形成



- 豊富かつ貴重な自然を観光資源とした、国際観光リゾートなどの新しい産業の誘致により、投資を呼び込む機能を高め、新規雇用を創出するとともに市内への移住を促進する。
- Society5.0が掲げる新技術をあらゆる産業や社会生活に取り入れ、持続可能な都市機能の整備として、市民や来訪者がストレスなく目的地への移動が可能となる、ICTを活用した交通サービス導入の検討を進める。
- 近年、多発する広域災害から安全・安心を確保するため、市民への情報発信の強化に取り組む。

各種事業の進捗状況

事業名・事業の内容	重要業績評価指標（KPI）	H30基準	R3実績	R4実績	R5実績	R6目標	達成状況
とまこまい版MaaS構築事業	地域課題の解決に向けた次世代モビリティに関するサービスの実装提供件数(件)	—	累計0	累計1	累計3	累計3	100.0%
危機管理に関する情報発信の強化	防災情報配信サービス(メール)登録者数(人)	—	5,228	5,402	5,547	6,000	92.5%
	防災情報配信サービス(LINE)登録者数(人)	—	2,790	3,487	5,047	4,000	126.2%
防災行政無線整備事業	屋外スピーカー設置基数(基)	25	127	127	127	130	97.7%
国際リゾートの形成	訪日外国人宿泊延べ人数(人泊)	35,780	1,218	6,598	15,411	42,560	36.2%
ごみ分別アプリ事業	アプリダウンロード数(%)	—	5	7	10	20	50.0%

施策19 ゼロカーボンシティ実現に向けた取組の推進



- 2021（令和3）年8月、2050（令和32）年までにCO2の実質排出量ゼロを目指す「ゼロカーボンシティ」へ挑戦することを宣言しました。市民、事業者、市が連携・協力の上で必要な環境行動を実施し、ゼロカーボンシティの実現を目指す。
- 本市の立地環境をいかした再生可能エネルギーの導入促進、水素の取組のほか、本市で行われているCCUS・カーボンリサイクルの様々な実証事業を軸に、ゼロカーボンと産業振興の両立を目指す。

各種事業の進捗状況

事業名・事業の内容	重要業績評価指標（KPI）	H30基準	R3実績	R4実績	R5実績	R6目標	達成状況
ゼロカーボン推進啓発事業	出前講座や体験学習会などの実施件数	—	累計23	累計48	累計117	累計38	307.9%
ゼロカーボンハウス促進補助事業	ゼロカーボンハウス促進補助金の補助件数	—	累計308	累計488	累計810	累計1,644	49.3%
ゼロカーボン対策推進企業の相談・支援	ゼロカーボン対策推進企業の支援件数	—	—	—	32	累計50	64.0%

02 | アンケート集計結果について

1. アンケート調査概要

- ・人口減少に関する各種課題の要因を明確にし、第3期総合戦略を策定するため、以下の対象者に対しアンケート調査を行い、結婚・出産・子育て、経済・雇用等に係る現状や希望の把握、分析等を実施。
- ・市外住民の移住意向や移住障壁等を把握、分析等を行うため、新たに市外住民向けのアンケートを実施。

ア 調査対象・内容

①20～39歳の市民	結婚、出産、子育て等に関する意識調査
②苫小牧市からの転出者	転出に関する意識調査（転出理由等）
③苫小牧市への転入者	転入に関する意識調査（転入理由等）
④市内の高校・大学等の学生	就職や進学に関する意識調査
⑤20～39歳の市外住民	札幌市、東京都、大阪府の在住者各200名

イ 調査方法

	ア 調査対象（①～④）	ア 調査対象（⑤）
対象者の抽出方法	住民基本台帳から無作為抽出	インターネット調査会社の登録者から対象属性を抽出
調査方法	郵送配布・郵送回収又はインターネット回答 （学生については、学校で配布）	インターネット回答
調査実施時期	令和6年（2024年）7月1日～7月16日	令和6年（2024年）7月23日～7月24日

ウ 配布数と回収率

	配布数	回収数	回収率
①20～39歳の市民	1,000票	214票	21.4%
②苫小牧市からの転出者	300票	72票	24.0%
③苫小牧市への転入者	1,000票	286票	28.6%
④市内の高校・大学等の学生	1,000票	933票	93.3%
⑤20～39歳の市外住民	600票	600票	100.0%

1. アンケート調査概要

エ アンケート結果概要（抜粋） ※今回（令和6年度）と前回（令和元年度）との比較

①20～39歳の市民

(1) 理想の子どもの数

今回：0人（10.3%）	前回：0人（5.4%）
1人（12.6%）	1人（3.1%）
2人（44.9%）	2人（55.3%）

(2) 子どもの数が増えると思う施策・対策

今回：1位 子育てに伴う経済的負担の軽減（23.6%）	前回：1位 子育てに伴う経済的負担の軽減（20.6%）
2位 安定した雇用の確保（16.1%）	2位 安定した雇用の確保（15.4%）
3位 子育てしやすい職場環境の整備（13.2%）	3位 子育てしやすい職場環境の整備（13.4%）

②苫小牧市からの転出者

(1) 転出のきっかけ

今回：1位 転勤（48.7%）	前回：1位 転勤（50.6%）
2位 就職・転職（28.2%）	2位 就職・転職（20.3%）
3位 結婚（7.7%）	3位 進学（8.9%）

(2) 住み続けることや、将来戻ってくるために必要なこと

今回：1位 働く場の充実（15.5%）	前回：1位 地域内の公共交通の整備（16.3%）
2位 地域内の公共交通の整備（11.5%）	2位 働く場の充実（14.5%）
3位 周辺自治体や都市圏への交通網の整備（10.3%）	2位 周辺自治体や都市圏への交通網の整備（14.5%）

1. アンケート調査概要

エ アンケート結果概要（抜粋） ※今回（令和6年度）と前回（令和元年度）との比較

③ 苫小牧市への転入者

(1) 転入のきっかけ

今回：1位 自分の仕事・事業のため (43.0%)	前回：1位 自分の仕事・事業のため (44.9%)
2位 家族・親族の仕事・事業のため (21.3%)	2位 家族・親族の仕事・事業のため (19.9%)
3位 自分の結婚のため (13.3%)	3位 自分の結婚のため (17.4%)

(2) 苫小牧市の住みやすさ

今回：1位 どちらからといえば住みやすい (51.7%)	前回：1位 どちらからといえば住みやすい (53.3%)
2位 住みやすい (31.8%)	2位 住みやすい (25.0%)
3位 どちらからといえば住みにくい (10.1%)	3位 どちらからといえば住みにくい (15.6%)

④ 市内の高校・大学等の学生

(1) 卒業後も苫小牧市に住み続けたいか

今回：1位 他の市町村に転出する予定 (28.6%)	前回：1位 他の市町村に転出する予定 (31.6%)
2位 当分の間は住み続けたい (25.1%)	2位 当分の間は住み続けたい (30.9%)
3位 できれば他の市町村に転出したい (20.8%)	3位 できれば他の市町村に転出したい (23.8%)

(2) 転出する理由

今回：1位 自分の通学のため (46.8%)	前回：1位 自分の通学のため (38.3%)
2位 自分の仕事・事業のため (38.4%)	2位 自分の仕事・事業のため (33.4%)
3位 家族・親族の仕事・事業のため (3.5%)	3位 家族・親族の仕事・事業のため (5.6%)

1. アンケート調査概要

エ アンケート結果概要（抜粋）

⑤20～39歳の市外住民 ※新規項目

（1）移住意向

- 今回：1位 過去に検討したことはなく、今後も移住する気はない（64.5%）
- 2位 条件が整えば、移住したい（21.7%）
- 3位 過去に検討したが、今は移住する気はない（11.3%）

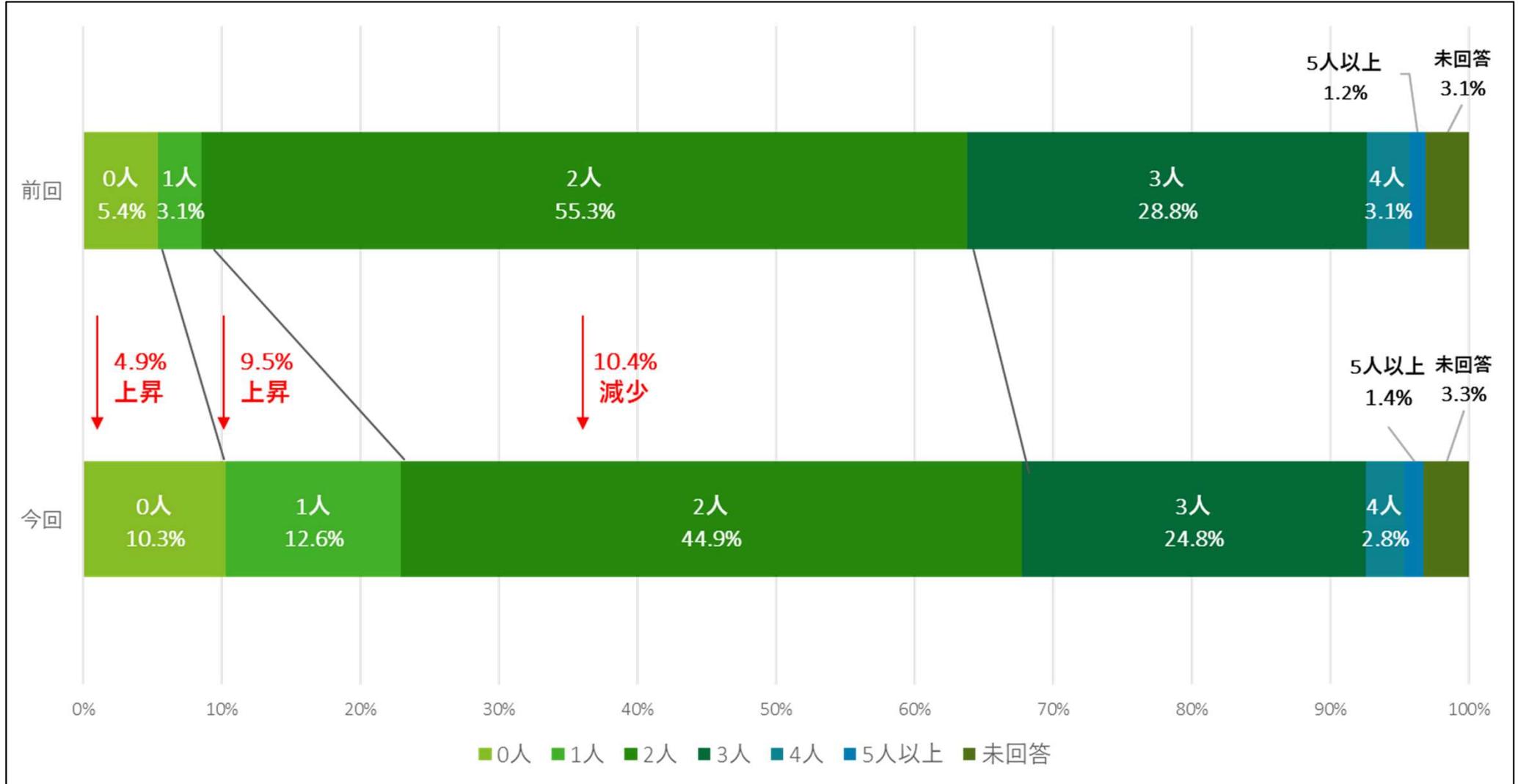
（2）移住に有効な行政支援

- 今回：1位 移住支援金等の「移住支援」（32.7%）
- 2位 就業マッチング等の「就労支援」（13.8%）
- 3位 医療費無料等の子育て支援（10.2%）

2. アンケート結果（抜粋）①20～39歳の市民

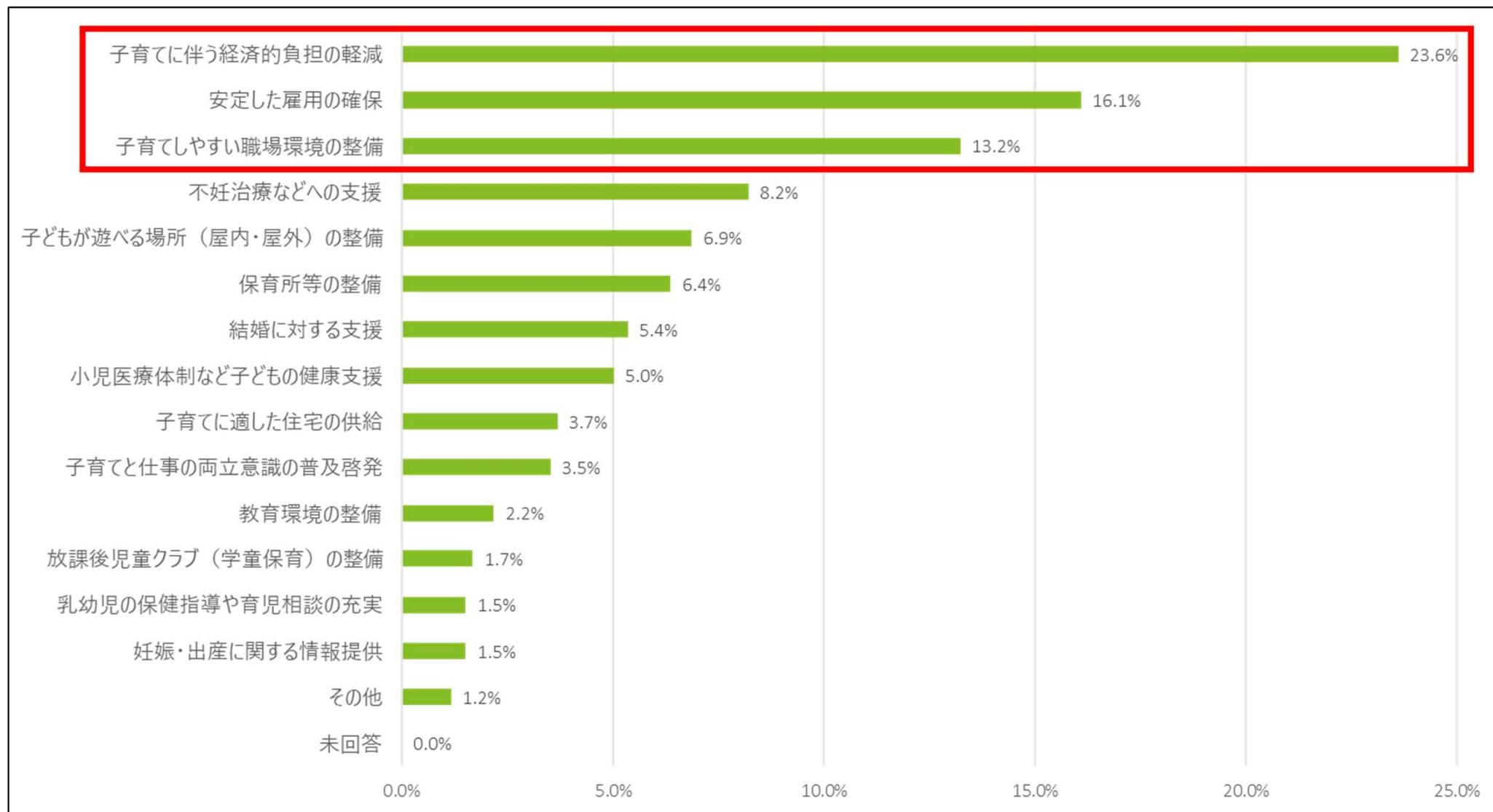
1 理想の子どもの数

「0人」（10.3%）、「1人」（12.6%）、「2人」（44.9%）であり、前回調査（令和2年）よりも理想の子どもの人数が減少しています。



2 子どもの数が増えると思う施策・対策

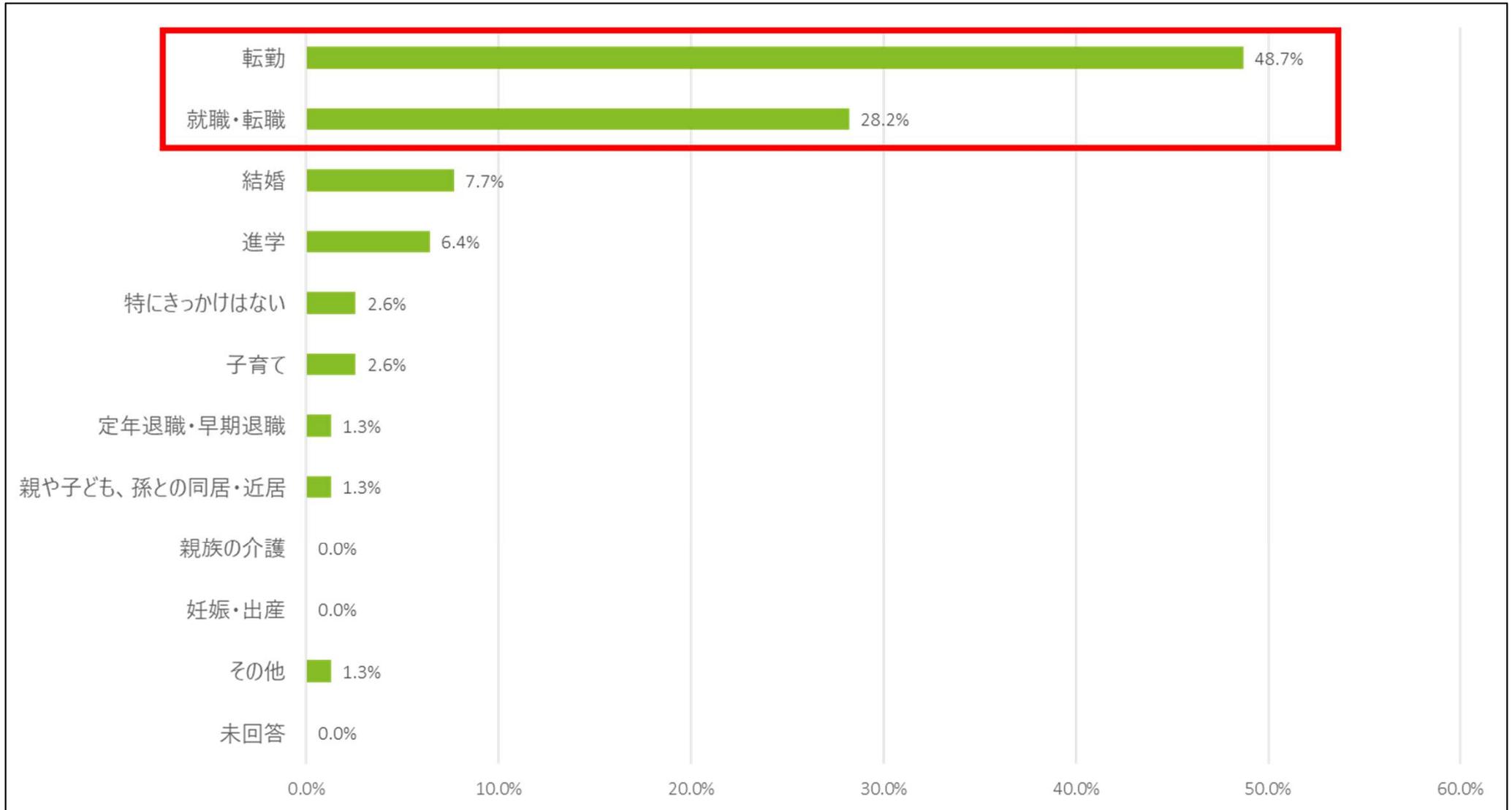
「子育てに伴う経済的負担の軽減」（23.6%）でもっとも多く、「安定した雇用の確保」（16.1%）、「子育てしやすい職場環境の整備」（13.2%）が続いており、経済支援および雇用環境整備の両面での施策・対策が必要であることが窺えます。



2. アンケート結果（抜粋）② 苫小牧市からの転出者

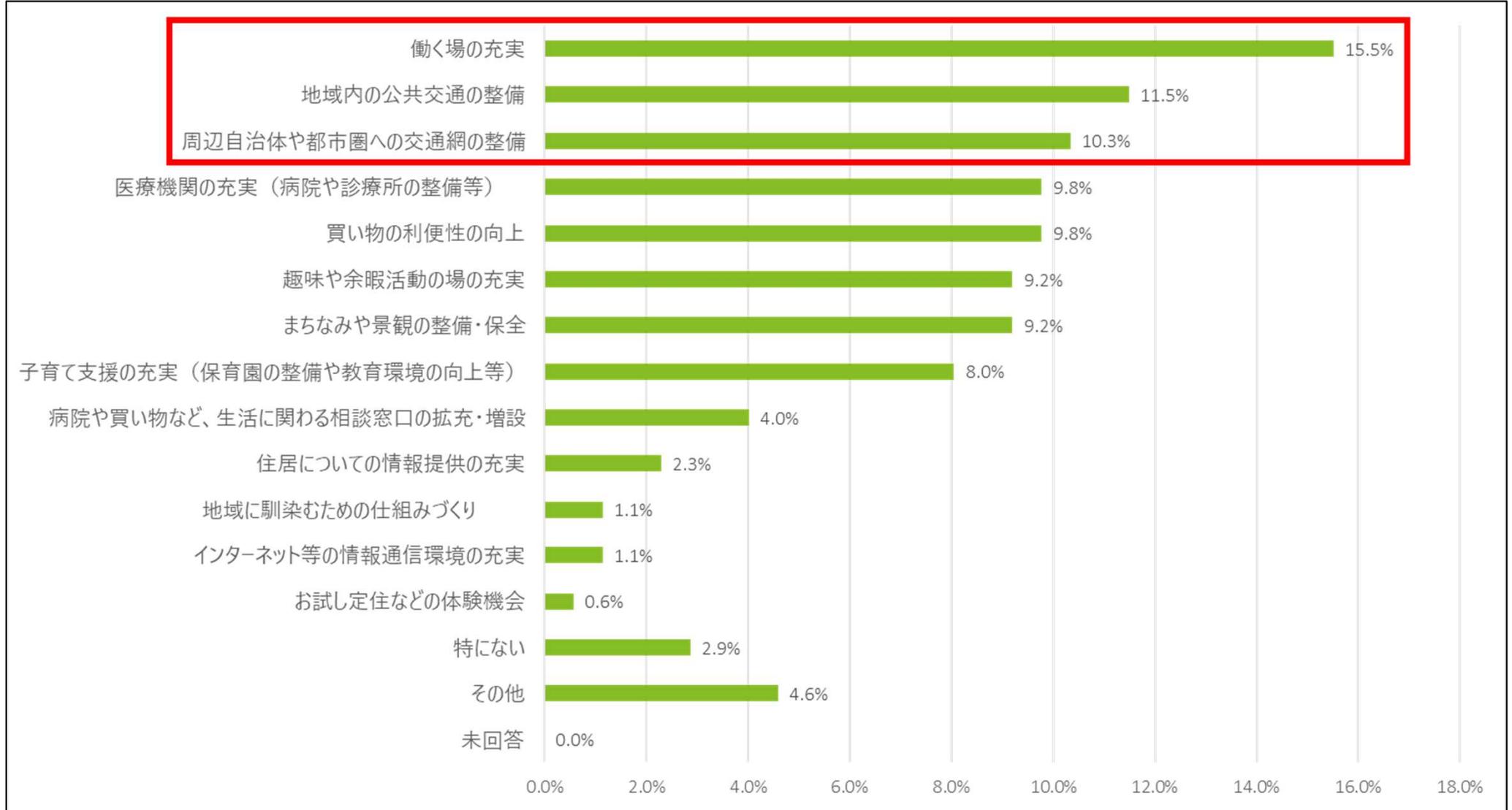
1 転出のきっかけ

「転勤」（48.7%）で最も多く、「就職・転職」（28.2%）が続いており、半数以上が仕事を理由に転出していることがわかります。



2 住み続けたり、将来戻ってくるために必要なこと

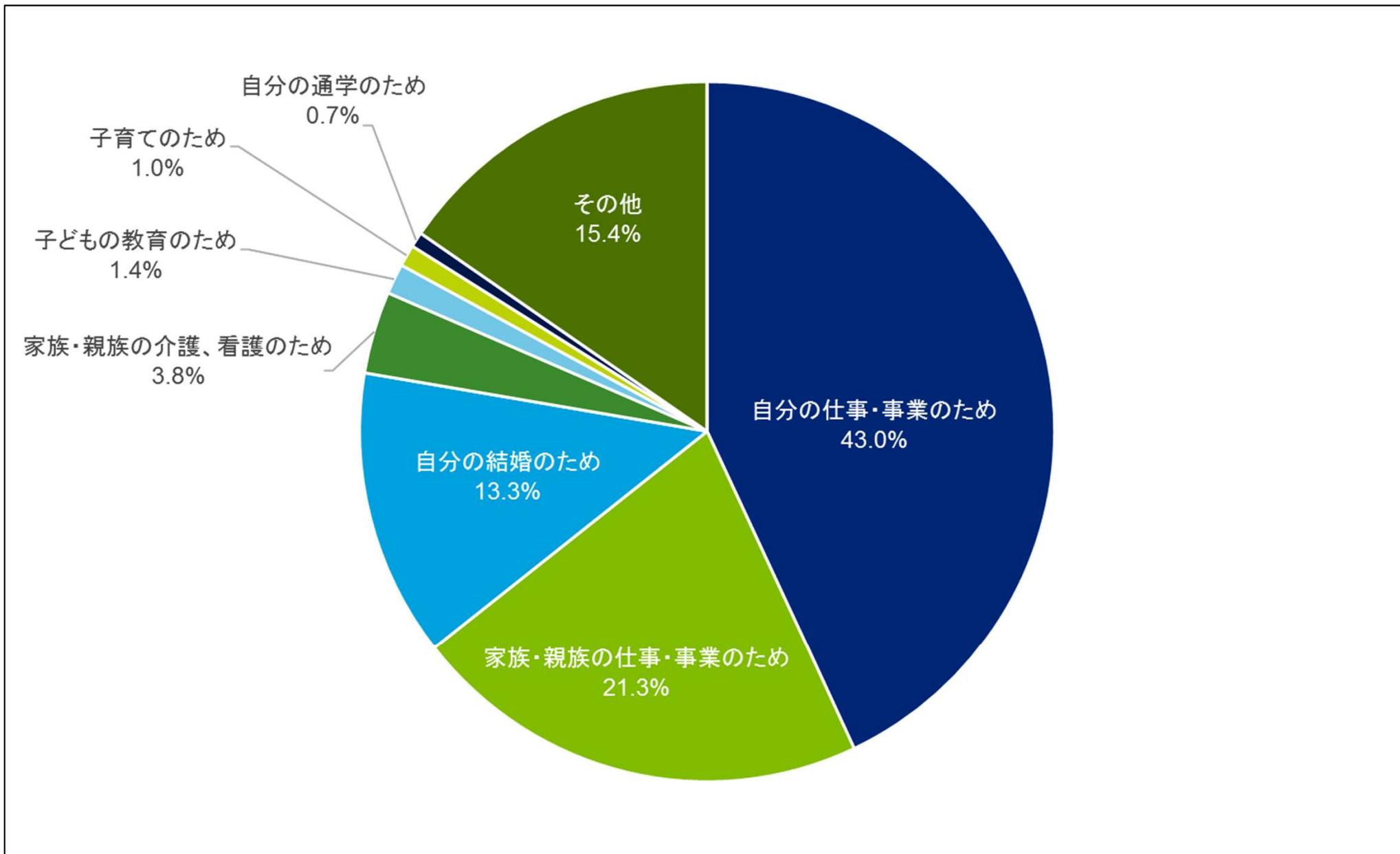
「働く場の充実」(15.5%)が最も多く、「地域内の公共交通の整備」(11.5%)、「周辺自治体や都市圏への交通網の整備」(10.3%)と続いており、雇用環境整備や交通関連の施策・対策が求められていることがわかります。



2. アンケート結果（抜粋） ③ 苫小牧市への転入者

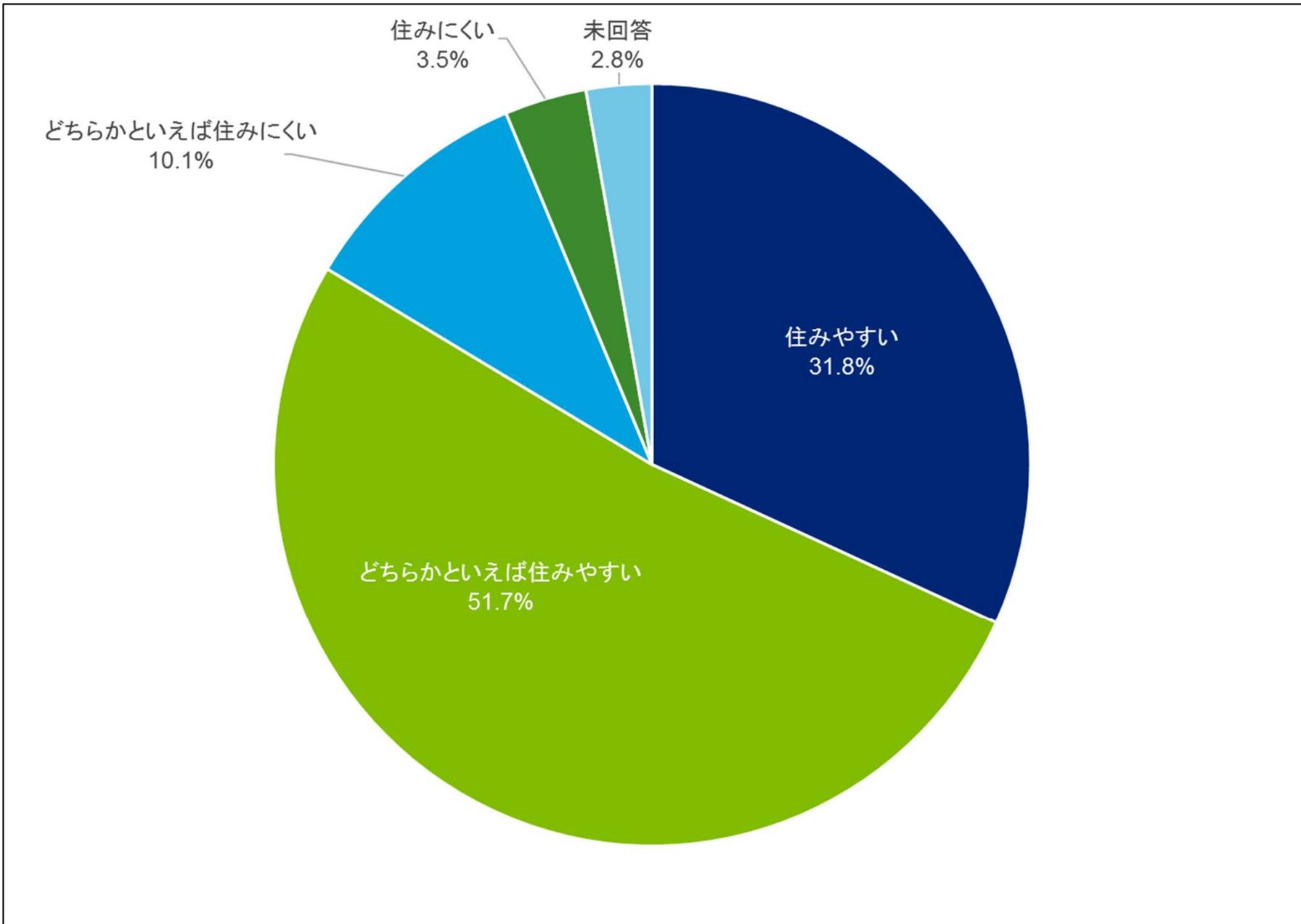
1 転入のきっかけ

「自分の仕事・事業のため」（43.0%）が最も多く、「家族・親族の仕事・事業のため」（21.3%）と続いており、半数以上が仕事を理由に転入していることがわかります。



2 住みやすいまちか

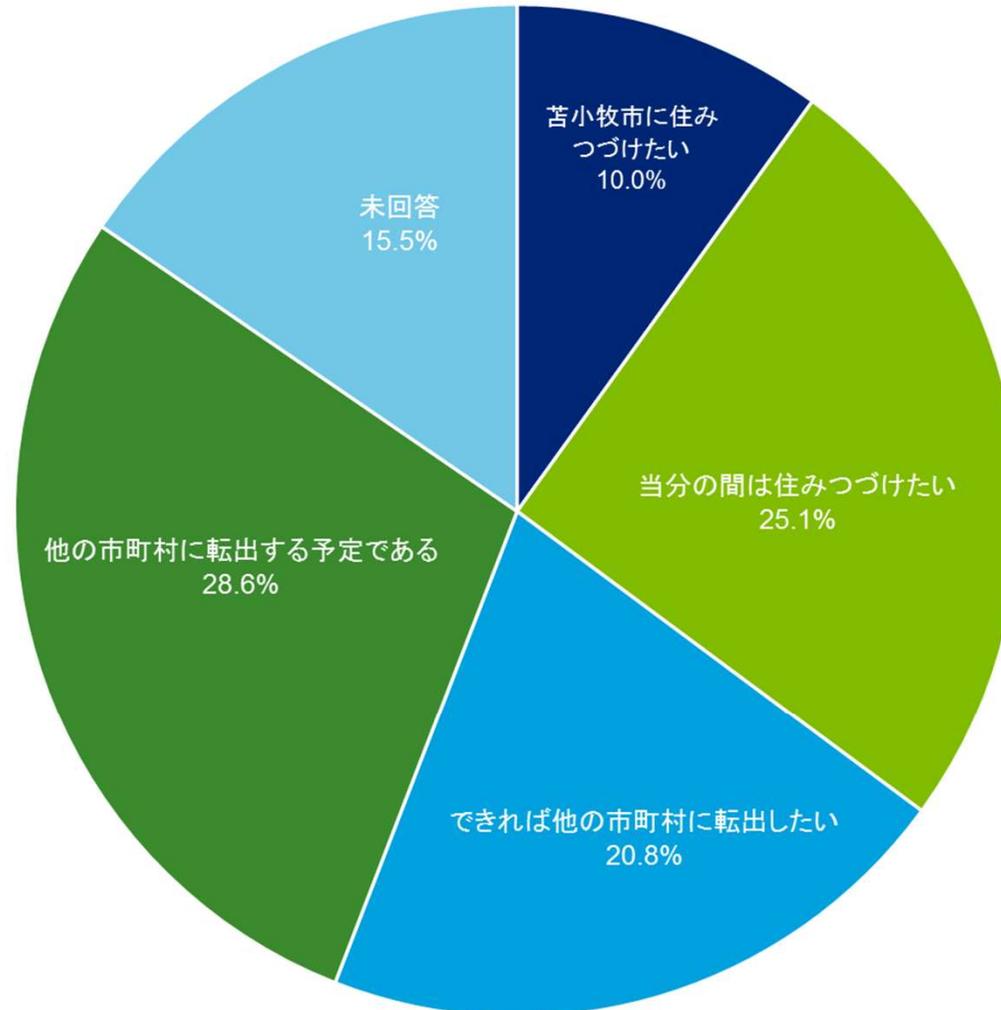
「住みやすい」(31.8%)、「どちらかといえば住みやすい」(51.7%)であり、80%以上の人が住みやすいと回答しています。



2. アンケート結果（抜粋）④市内の高校・大学等の学生

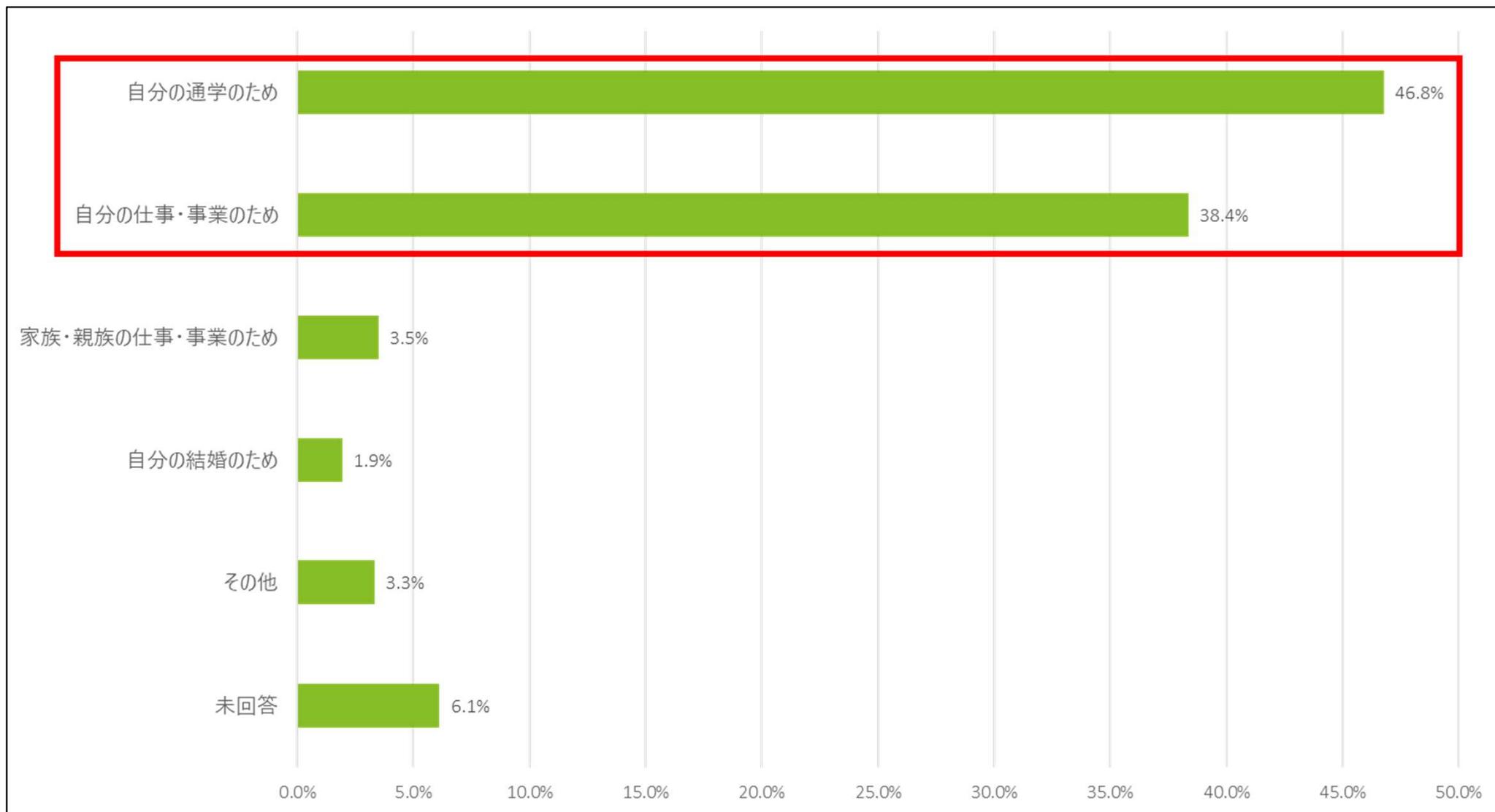
1 卒業後も住み続けたいか

「苫小牧市に住み続けたい」（10.0%）、「当分の間は住み続けたい」（25.1%）で35.1%の人が住み続けたいと回答している一方で、「できれば他の市町村に転出したい」（20.8%）、「他の市町村に転出する予定である」（28.6%）で、半数近くが転出を希望しています。



2 転出する理由

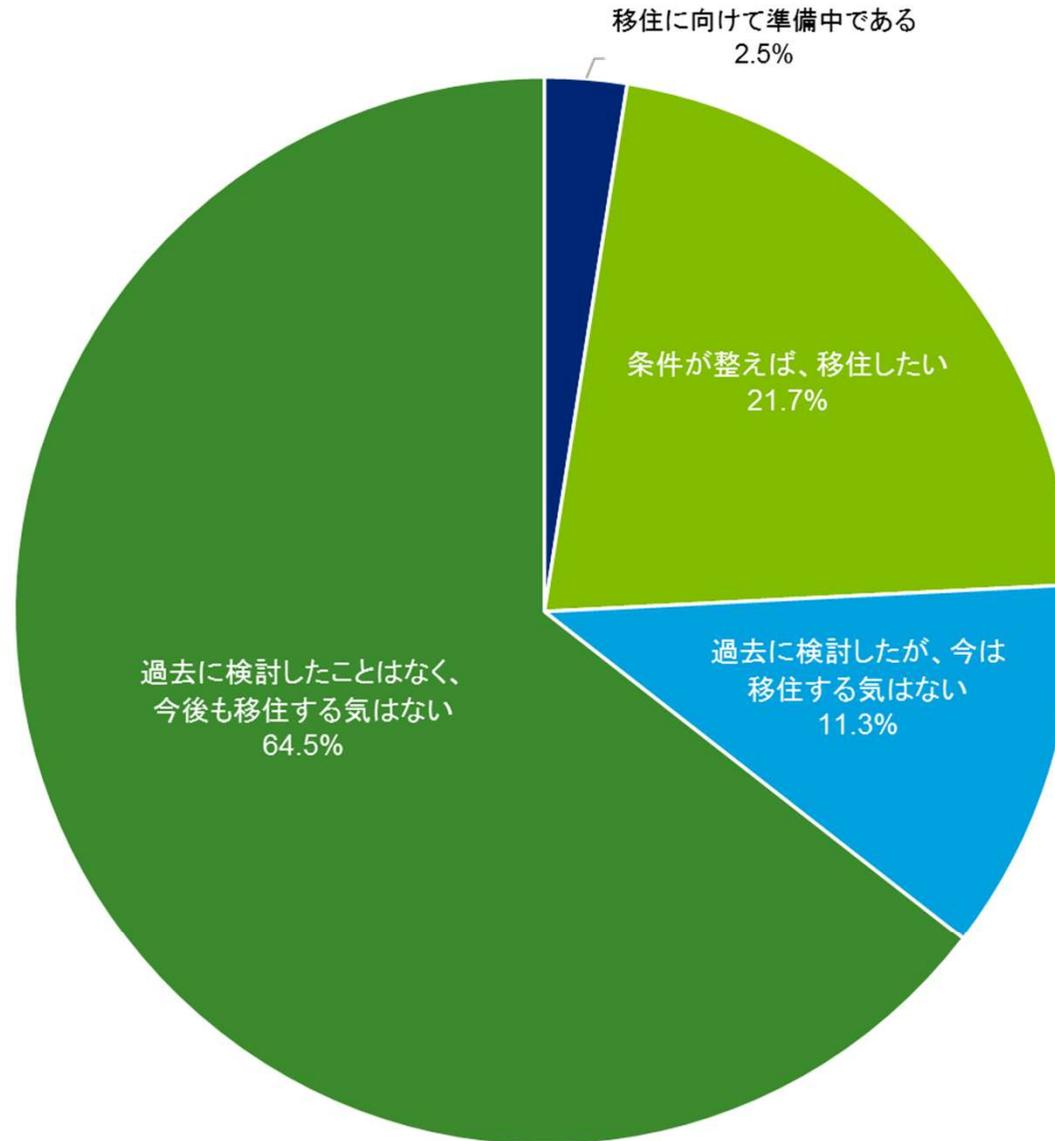
「自分の通学のため」(46.8%)が最も多く、「自分の仕事・事業のため」(38.4%)と続いており、転出を希望する理由の80%以上が学業もしくは仕事関連であることがわかります。



2. アンケート結果（抜粋）⑤20～39歳の市外住民

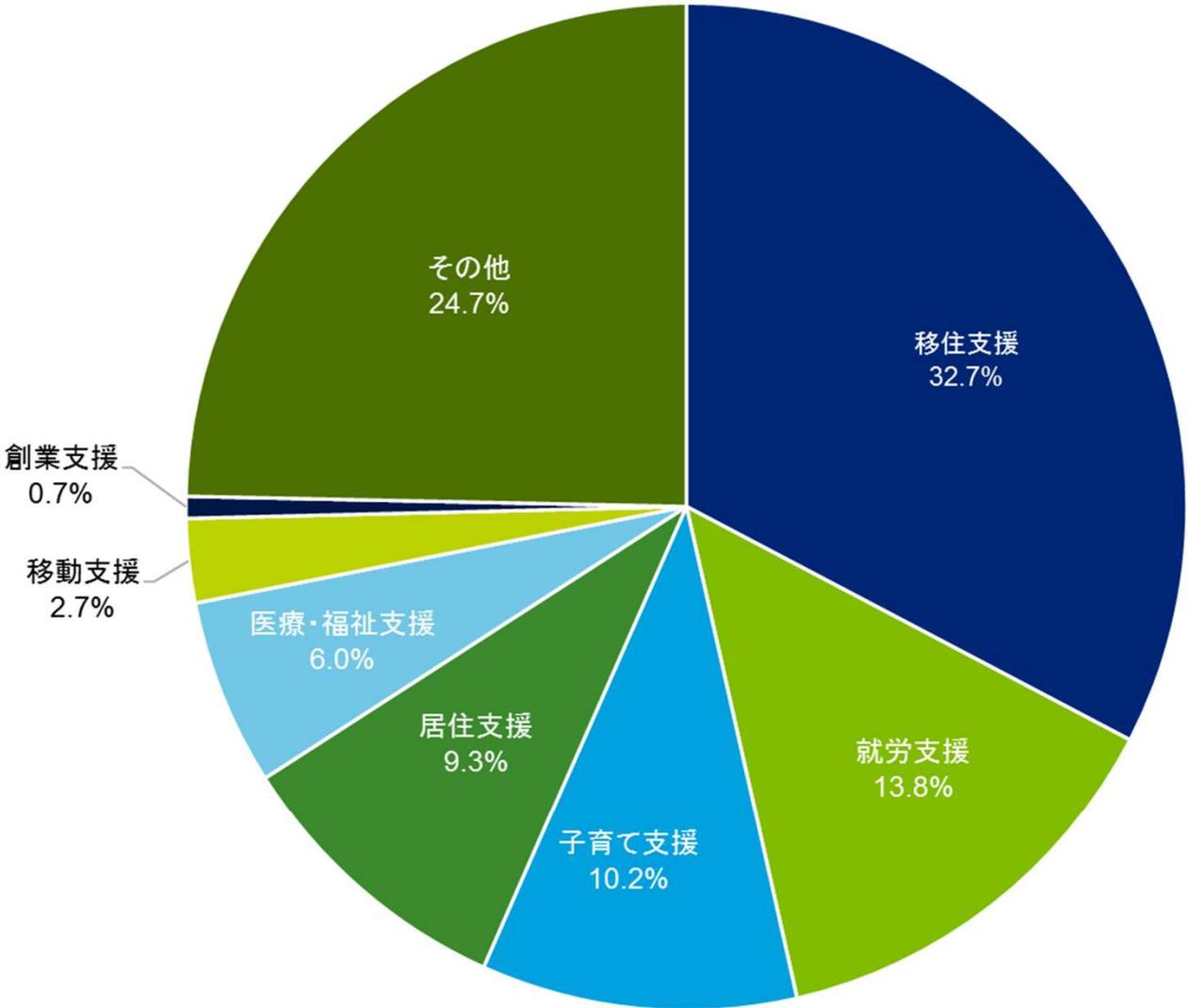
1 移住意向

「過去に検討したことはなく、今後も移住する気はない」（64.5%）が最も多く、一方で「条件が整えば、移住したい」（21.7%）との回答があり、約2割が移住の意向があります。



2 移住に有効な行政支援

移住に必要な行政支援は、移住支援金をはじめとした移住支援を希望する人が東京都、大阪府、札幌市共通して多い傾向がありました。また、次に就業マッチング等の就労支援が挙げられます。



03 | 第3期人口ビジョン及び総合戦略骨子(案)について

1 骨子の趣旨

新たな戦略策定の基礎資料とするため、本市の人口の現状（人口動向や市民意識等）を取りまとめ、今後目指すべき将来の方向と人口の将来展望を示す。

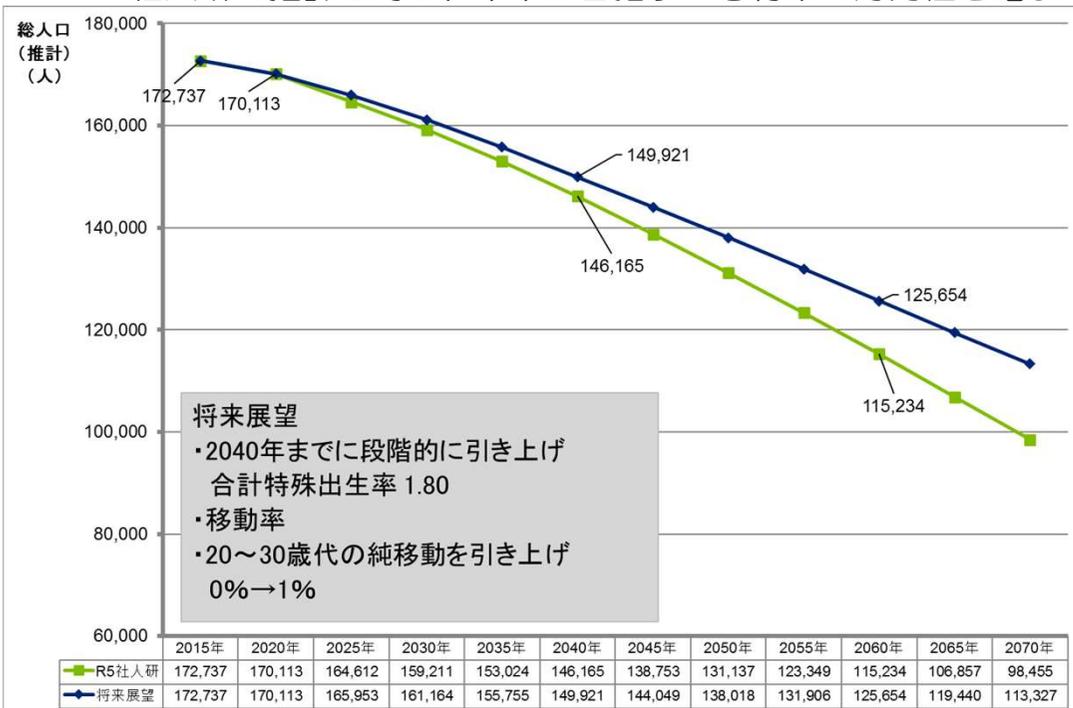
2 人口の将来展望

(1) 目指すべき将来の方向性

- 産業構造等の人口動向や市民アンケートの結果から、本市の課題を整理・分析し、目指すべき将来の方向性を設定する。
 （第2期参考）①雇用環境を維持・向上し、若者が就職のため札幌市や首都圏に転出することを抑制する。また、進学などで一度転出した若者のUターンを促進する。
 ②子育て・教育しやすい環境を整備することで、結婚・子育て世代の転入を増やし、合計特殊出生率を向上させる。
 ③生活環境を改善し、苫小牧市での暮らしのメリットをPRすることで、交流人口やUターンをより増加させる。
 ④北海道内はもとより、国際的な競争力を持つ市として、企業誘致をはじめ、民間投資を呼び込むための誘致活動を充実させる。

(2) 将来展望人口のシミュレーション

- 社人研の推計に対し、本市が目指すべき将来の方向性を踏まえたシミュレーションを実施。



	合計特殊出生率 (自然動態)	純移動率 (社会動態)	推計値 (単位: 人)	
			2040年	2060年
将来展望	令和22年(2040年)までに段階的に引き上げ(合計特殊出生率1.80)	20~30歳代の純移動を引き上げ(1%)	149,921	125,654

(3) 人口の将来展望

令和22年(2040年) 15万人 を維持する → 令和42年(2060年) 13万人 を維持する

1 骨子の趣旨

今年度、第2期総合戦略の最終年を迎えるが、これまでの取組を礎として長期的な視点に立ち、人口減少対策、地方創生の取組を切れ目なく、粘り強く進めるとともに、新たな視点を加え、近年の経済・社会情勢の変化に対応できる**新たな戦略を策定**する。

2 総合戦略の位置づけ

- (1) 「まち・ひと・しごと創生法」第10条に基づく「市町村まち・ひと・しごと創生総合戦略」である。
- (2) 国が策定した「デジタル田園都市国家構想総合戦略」及び北海道が策定する次期「北海道創生総合戦略」を勘案する。
- (3) 苫小牧市総合計画と整合を図る。

3 総合戦略の推進により目指す本市の姿

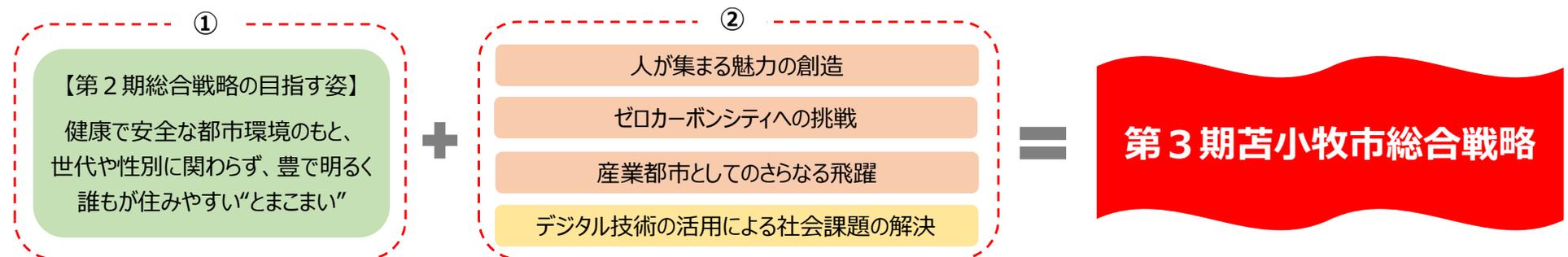
これまでの取組

- 苫小牧市総合戦略の取組が人口減少抑制に一定程度、寄与しているものと考えられる。
 - ・ 重要業績評価指標（KPI）に対する事業実績値は概ね順調に推移
 - ・ 道内の人口規模上位5市のうち、札幌市を除く4市と比較すると本市の人口減少幅は少ないものの、減少率は増加している状況
 - ・ 本市の合計特殊出生率は1.41であり、道内の人口5万人以上の市と比較すると最も高い結果（厚生労働省令和6年4月公表）

今後の課題

- 本市の社会動態・自然動態の推移を見ると、引き続き人口減少が進む傾向
- 産業拠点都市として発展し、北海道経済を支える要のまち苫小牧にとって、人口減少に伴う経済活動停滞や社会不安は課題

次期戦略で目指す本市の姿



- ① 人口減少を極力食い止め、その影響を最小限に抑え、人口が減少しても持続することができるまちづくりを継続
- ② 「2040年に人口15万人、2060年には人口13万人を維持する」との将来展望に立ち、経済・社会情勢の変化等を見据えた新たな施策の展開

4 取組の基本方向

(1) 現行戦略の考え方を土台としつつ、(2) 経済・社会情勢の変化等を見据えた取組を展開していく。

(1) ◆ 地元雇用の確保・拡大

- ◆ 子育て環境の充実
- ◆ 地元の魅力強化・暮らしやすさ発信
- ◆ 産業競争力・地域ブランド力の向上



(2) ◆ 人が集まる魅力の創造

- ・ 駅周辺エリアの再生等による魅力の創造
- ◆ ゼロカーボンシティへの挑戦
 - ・ 官民協働等による脱炭素化に向けた取組
- ◆ 産業都市としてのさらなる飛躍
 - ・ 次世代半導体工場やデータセンター等の進出による新たな需要の確保
- ◆ デジタル技術の活用による社会課題の解決
 - ・ DX等のデジタル技術を活用した施策の推進

5 国が示す基本的方向

各地方公共団体においては、人口の現状と将来の展望を踏まえた上で、地域の実情に応じながら、一定のまとまりの政策分野ごとに、地方版総合戦略の目標を設定することが適切とされており、各地域の社会課題解決や魅力向上を図るためには、デジタルの力を活用しつつ、以下の4つの取組を特に進めていくことが求められている。

1 地方に仕事をつくる

2 人の流れをつくる

3 結婚・出産・子育ての希望をかなえる

4 魅力的な地域をつくる

(地方版総合戦略の策定・効果検証のための手引き 令和4年12月公表)

6 推進期間

人口の長期的な展望に立ち、短中期的な見地から施策を計画的に実施すること、また、北海道との一体的な取組を推進する観点から、推進期間を令和7年度（2025年度）から11年度（2029年度）までの5年間とする。

また、推進期間の中間年にあたる令和9年度には、社会経済情勢の変化等を踏まえ、中間見直しを実施する。

04 | 今後のスケジュールについて

4.今後のスケジュールについて

Step	日程	会議の内容	国・北海道
【第1回】 戦略会議	9月20日 (本日)	<ul style="list-style-type: none"> ● 第2期人口ビジョン・総合戦略の検証 ● 市民アンケート結果の報告 ● 第3期人口ビジョン・総合戦略骨子の説明 	○令和5年末(国) ・デジタル田園都市国家構想総合戦略改訂 ○5月 北海道創生協議会(北海道) ・次期戦略骨子策定に向けた議論 ○9月 骨子に対する市町村・団体意見照会
【第2回】 戦略会議	10月～11月	<ul style="list-style-type: none"> ● 第3期人口ビジョン・総合戦略(素案)の説明 	○8～10月 北海道創生協議会(北海道) ・次期戦略・人口ビジョン素案策定に向けた議論 ・パブリックコメント、市町村・団体意見照会
パブリックコメント実施	11月～12月	—	○11月 北海道創生協議会(北海道) ・次期戦略・人口ビジョン原案策定に向けた議論
市議会提出	12月	—	○冬頃(北海道) ・次期戦略・人口ビジョン決定
【第3回】 戦略会議	1月	<ul style="list-style-type: none"> ● パブリックコメント結果報告 ● 第3期人口ビジョン・総合戦略(原案)の説明 	—
市議会提出	2月	—	—
【第4回】 戦略会議 (書面会議)	3月	<ul style="list-style-type: none"> ● 第3期人口ビジョン・総合戦略の報告 	—

※ 完成版の公表は令和7年4月1日を予定しております。